

学校教育目標		夢や目標をもち、自己実現をめざす児童・生徒の育成					ミッション 児童生徒と保護者・地域との絆を深める学校となる					ビジョン 地域に信頼され、期待に応える吉和小中一貫教育活動の推進				
重点	中期(3年間)経営目標	短期(1年間)経営目標	目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	評価指標 (効果を見取る目安)	目標 値%	目 標	自己評価			自己評価			結果と課題の分析	改善方策		
							8月			2月						
							実施値	達成値	評価	実質値	達成値	評価				
確かな学力 小中一貫で取り組む重要課題	学び合う集団づくり(学力向上)	全体の指標		全国学力・学習状況調査 教科平均が通過率 B問題60%以上の児童生徒の割合 (廿日市市重点目標)	66%	中学生：10/15 小学生：10/15 (教科数×人数)	46%	70%	C	46%	70%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査では、小学校では国語の「読むこと」に課題がある。中学校も同様に国語に課題があり特に「読むこと」、数学では「図形」に課題がある。 ・廿日市市学力状況調査では、国語、算数に課題があり、国語では特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題がある。算数では、「図形」に課題がある。 ・CRTにおいて、全国平均以上であった児童生徒は60%であった。学年ごとの差が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通過率の低かった課題のある単元や分野を個別に明らかにしていく。 ・課題発見解決学習などを通して日常生活と関連のある内容にできる限り取り組むことでB問題のような発展的な問題に対応していく。 ・ICT機器の有効活用できる授業の工夫についての研修を進める。 ・説明力向上に向けた取組を工夫していく。 		
				廿日市市学力状況調査 全国平均以上の児童生徒の割合	70%	小学生：6/8 (教科数×人数)				25%	36%	D				
				CRT(標準学力検査) 全国平均以上の児童生徒の割合	70%	小中学生：30/30 (小1~中1)				60%	86%	B				
		授業改善 基礎力と活 用力の向上	「よしわ学びのサイクル」を意識した授業づくり(説明力の向上) 【重点項目】	教職員アンケート 説明力向上に向けた授業改善を実施した教職員(ICT機器の活用、説明の場の工夫、グループの活用)	100%	10人/10人	100%	100%			B	100%			100%	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、説明力向上をキーワードにして小中教職員全員が取り組んだ。授業改善を実施した教職員の割合は100%であり、全員が意識統一して取り組めた。 ・説明の場において自分の考えをはっきりと表現できた児童生徒の割合は76%から82%へと上昇した。しかし、自分の考えをはっきりと表現できない児童生徒はまだ12%あり、それが固定化している傾向にある。 ・CRTにおいて、全国平均を基準としたときの通過率が上昇した児童生徒の割合は47%であった。 ・家庭学習を100%やりきった児童生徒の割合は81%から93%へ上昇し、よい習慣が定着しつつある。月ごとに達成者を評価したことが良い結果につながったと考えられる。
		児童生徒アンケート 説明の場において自分の考えをはっきりと表現できた児童生徒の割合		100%	35人/35人	76%	76%		82%	82%	B					
		昨年度重点 課題の克服	表現力向上に向けた補充学習の工夫	CRTにおいて、全国平均を基準としたときの通過率が上昇した児童生徒の割合	100%	24人/24人 (小3~中3)					47%	47%			D	
	家庭学習の 習慣化	○家庭学習の表彰 決められた課題をやりきった児童生徒	家庭学習を100%やりきった児童生徒の割合	100%	35人/35人	81%	81%	B	93%	93%	B					
	豊かな心の育成	高め合う 仲間づくり 高め合う 仲間づくり	よりよい人 間関係づくり	アセスの活用 (廿日市市重点目標)	「基礎・基本」定着状況調査質問紙における自己有用感への肯定的評価	100%	24人/24人	88%	88%	B	88%	88%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自己有用感への肯定的評価は全体では88%と高い割合は示している。縦割りの学習などを通して学級の児童生徒ばかりでなく、他学年との交流を行ったことはプラスだったと考えられる。川柳の取組を通して自己有用感が高まった児童生徒も多い。 ・返事をし、相手の方を向いて話を聞いた児童生徒の割合は84%から88%へ上昇した。その都度、やり直しをさせたことなどは効果があったが、徹底しきれていないのが現状である。 ・小学校の道徳は、今年度から教科書が使われるようになった。教材選択等が容易になり、作業効率は上がった。教科書に頼りすぎた面もありさらなる教材開発、発問の工夫が望まれる。中学校では学年の教員とT.Tで授業を行ったことで教材理解も深まり、工夫等にも役立った。 ・集団の目標や自分の目標を達成した児童生徒の割合は95%から100%へと上昇した。行事などを通して自己肯定感や自己有用感が高まったと考えられる。今年度から新たに実施した縦割りの取組なども好影響を与えたと考えられる。 		
			よりよい人 間関係づくり	返事の励行	児童生徒アンケート 返事をし、相手の方を向いて話を聞いた児童生徒の割合	100%	35人/35人	84%	84%	B	88%	88%	B			
			よりよい人 間関係づくり	道徳教育の充実	教職員アンケート 児童生徒が考えを議論したりしたくなるような導入・発問の工夫ができた教職員の割合	100%	10人/10人	82%	82%	B	90%	90%	B			
自分で考え、責任をもって行動できる児童生徒の育成			学校行事や異年齢集団活動等での目標達成に向けた取組の充実	児童生徒アンケート 集団の目標や自分の目標を達成した児童生徒の割合	100%	35人/35人	95%	95%	B	100%	100%	A				